



ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆

～あなたの悩み事は当社までご相談下さい～

【今月の一冊】 1%の努力

西村 博之 著 ダイヤモンド社

ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2021年5月1日 Vol. 223

発行元 有限会社プライム・コーポレーション

代表取締役 渡邊 敏徳

〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地

TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

合成の誤謬

経済学の用語に「合成の誤謬」(ごうせいのごびゅう)という言葉があります。簡単に言うと「正しいこと+正しいこと=間違った結果」となる事例のことを指します。普通に考えると正しいことを足していけば正しい結果が返ってくると思いますが、どんな条件下でも常に正しい結果が返ってくるわけでもないことは歴史が証明しています。

例えば、Jリーグのサッカーの試合を見に行くとします。スタジアムの観覧席には椅子が設置されています。当然椅子に座るよりも立った方が視野は広く見やすくなります。だから観客1人1人は座らずに立った方が合理的な行動だと考えます。しかしそれをスタジアムに行った人たち全員がやったらどうでしょう……。前の方に背が高い人が立っていたら、後ろの方の人は全く見えないことになってしまいます。全員が座って見れば、サッカー選手の動きやスタジアム全体を見渡すことができたのに、個人の合理的な判断で「立つ」という行為の結果、逆に見えない人が続出してしまいます。

また現在新型コロナウイルスの変異株が猛威を振るっていますが、このコロナ渦においても「合成の誤謬」が見受けられます。今私たちがマスクを買うのは合理的な行動です。トイレットペーパーが足りなくなるというのは誤ったニュースでしたが、それを聞いてトイレットペーパーを買い求めることもまた合理的な行動と言えます。

しかし、その結果何が起こったのでしょうか。例えば、会社の指示により会社には出勤せずに在宅勤務になったことで外出が減り、マスクを使用する頻度が少なくなりました。その結果マスクが余る人がいる一方で、医療の現場やタクシーの運転手など、人との接触が多く相対的により必要な人がマスクを入手できなくなってしまうという状況が生まれてきてしまいました。

「合成の誤謬」は世の中のいろんな場面で生じる可能性があります。物事の判断をロジカルに考えるのはとても大切なことだとは思いますが、合成の誤謬を生じさせないためには、



●+●=×

大きな視野で物事を判断することが重要であり、自分のことばかりを優先するのではなく、周りの人を思いやる気持ちがとても必要だと感じます。正しいことをしていれば正しい結果が返ってくるんだという考え方を少し疑ってみたいと思います。

温水洗浄便座

私が小さいころから考えると想像もつかないほど、自宅はもとより公共施設に至ってもトイレの環境は快適に整備されました。日本ではこの温水洗浄便座を装備した便器がどんどん増加しており、2015年3月末現在の一般家庭への普及率は77.5%に達しているそうです。

一般的に温水洗浄便座は「おしり」と書かれたボタンを押すことによって温水がノズルから噴出する。脱臭、乾燥、暖房便座の機能、便蓋・便座開閉、室内暖房、さらには便器の自動洗浄や音楽再生、スマートフォン連動まで様々な機能が盛り込まれています。

とても快適で便利になったのはいいのですが、ちょっと扱いづらいことがあるのも事実です。トイレに入ると自動で便蓋が開きますが、便座はそのままなので男性はリモコンの開閉のボタンがどこかわからず立ち尽くしてしまいます。リモコンのボタンがあまりにも多すぎて戸惑ってしまうのは私だけでしょうか。

視覚障害のある人にとって、個室トイレの数あるボタンの中から洗浄ボタンを探すのは一苦勞。「(洗浄ボタンなどの)位置が統一されることを願う」とツイッターでつぶやいた全盲の女性の投稿には、多くの反響があったという記事を読みました。視覚障害のある人にとっても優しい社会にしていくことが大切です。



【座右の銘にしたい名言】



「やったこと」は、例え失敗しても20年後には笑い話にできる。

しかし、「やらなかったこと」は、20年後には後悔するだけだ。

(マーク・トウェイン/米国の作家、小説家)